

平成20年度森林環境基金事業の実績について

I 森林環境の適正な保全

1 森林整備事業

| 事業概要 | |
|--|-----------------------|
| 手入れが行われず荒廃が懸念される公益的機能の高い水源地域の森林について、事前調査及び間伐等の森林整備を実施した。 | |
| ・ 森林整備事業（県営） | 1,934ha 事業費：584,691千円 |
| ・ 森林整備促進事業（補助） | 1,976ha 補助額：388,710千円 |

○H20実績

・ 県営事業

計画量2,086haに対して1,934ha（対計画比：93%）を実施した。

| 区分 | 事前調査 | | 森林整備 | | bのうちH21に森林整備を実施する予定のもの $d=(a+b)-c$ | 備考 |
|-------|-------------|-------------|-------|------------|---------------------------------------|-------|
| | H19調査分 a | H20調査分 b | H20計画 | H20実績 c | | |
| 県計 | 582 | 1,800 | 2,086 | 1,934 | 448 | 単位:ha |
| (県北) | 15 | 98 | 148 | 90 | 23 | |
| (県中) | 58 | 509 | 573 | 479 | 88 | |
| (県南) | 115 | 262 | 320 | 338 | 39 | |
| (会津) | 76 | 205 | 294 | 269 | 12 | |
| (南会津) | 44 | 64 | 44 | 57 | 51 | |
| (相双) | 147 | 180 | 283 | 266 | 61 | |
| (いわき) | 130 | 481 | 424 | 436 | 175 | |

※値は、各事務所毎に単位未満を四捨五入しているため、積上合計と県計は必ずしも一致しない。

・ 補助事業（平成19年度12月補正予算において、創設。）

平成19年度からの繰越分を含め、計画量2,250haに対して1,976ha（対計画比：88%）を実施した。

整備面積：3,910ha（県営：1,934ha、補助：1,976ha）

○実績累計

- ・ 県営事業 4,577ha（平成18年度：710ha、平成19年度：1,933ha、平成20年度：1,934ha）
- ・ 補助事業 3,272ha（平成19年度：1,296ha、平成20年度：1,976ha）

2 森林環境適正管理事業

| 事業概要 |
|--|
| 森林情報を一元的に管理するとともに、地図を活用した森林情報を広く県民等に発信するため、森林GISシステムの構築を進めた。 |
| ・ 森林情報(GIS)活用推進事業 事業費：38,784千円 |

○H20実績

- ・ 業務委託により、森林資源情報システム、施業履歴管理システム及び森林情報発信システムを開発した。なお、開発にあたっては、有識者からなる検討委員会から技術的な指導を受けながら進めた。（事業費：37,208千円）

※なお、森林情報発信システムについては、平成21年4月13日よりweb公開開始。

- ・ 森林GISの的確な情報整備のため、長伐期化等に対応した森林情報を構築した。（事業費：1,576千円）

II 森林資源の利用促進

3 間伐材搬出支援事業

事業概要

間伐材の利用促進を図るため、間伐材の搬出に必要な作業路の整備及び原木市場等への間伐材の運搬を支援した。

- ・ 間伐材運搬経費支援事業 25,000㎡ (500円/㎡) 補助額：12,500千円
- ・ 林内作業路整備支援事業 50,000m (500円/m) 補助額：25,000千円

○実績累計

- ・ 間伐材運搬経費支援事業 補助額：62,633千円
66,777㎡ (平成18年度:16,777㎡、平成19年度:25,000㎡、平成20年度:25,000㎡)
- ・ 林内作業路整備支援事業 補助額：67,000千円
134,000m (平成18年度:12,000m、平成19年度:72,000m、平成20年度:50,000m)

4 間伐材利用促進事業

事業概要

間伐材の利用促進を図るため、県有施設工事への間伐材活用、県管理施設等に間伐材を主体とする木材製品や資材の利用展示を行う安らぎの場の創出、間伐材や製材端材等の木質バイオマスの循環利用を推進するペレットストーブの導入支援を実施した。

- ・ 県有施設の間伐材利活用推進事業 事業費：4,466千円
- ・ 「ほっと」スペース創出事業 事業費：3,498千円
- ・ ペレットストーブ利用推進事業 補助額：2,500千円

○H20実績

- ・ 県有施設の間伐材利活用推進事業
東ヶ丘公園 (南相馬市) 木柵設置 (土木部 L=156m 2月19日竣工)
- ・ 「ほっと」スペース創出事業
 - ①福島県文化センターに受付用テーブル1台、テーブル2台、ベンチ7台、看板1基を設置した。(事業費：588,420円)
 - ②ビッグパレットふくしまにベンチ3台、掲示板1基を設置した。(事業費：649,845円)
 - ③JR新白河駅にテーブル2台、イス8脚、案内板1基を設置、棚倉合同庁舎にテーブル1台、ベンチ2台、マガジンラック1基を設置した。(事業費：581,700円)
 - ④会津若松合同庁舎県民ホールにカタログ棚5台を設置した。(事業費：472,500円)
 - ⑤会津湯野上温泉駅にベンチ4台、本棚1基を設置した。(事業費：288,000円)
 - ⑥道の駅そうまに丸テーブル4台、万能イス16脚、ベンチ4台を設置、富岡合同庁舎に机1台、長イス1台を設置した。(事業費：430,500円)
 - ⑦福島県いわき海浜自然の家にテーブル2台、イス付きテーブル2台を設置した。(事業費：487,200円)
- ・ ペレットストーブ利用推進事業
民間施設等への導入支援に係る申請が50台に達したため、支援を終了した。(5万円/台)

○実績累計

- ・ 県有施設の間伐材利活用推進事業 3施設
- ・ 間伐材利用拡大モデル展示事業 2タイプ (常設展示:1ヶ所、移動用:1式)
- ・ 「ほっと」スペース創出事業 県有施設等20施設
- ・ ペレットストーブ利用推進事業 122台 (県有施設25台、民間施設等97台)

III 県民参画の推進

5 森林環境学習推進事業

事業概要

県民を対象として、各流域の特色を活かした森林環境ゼミナールを開催するとともに、森林環境学習に必要なフィールドの整備を行い、森林環境学習の推進を図った。

| | |
|----------------|-------------|
| ・森林環境ゼミナール開催事業 | 事業費：2,090千円 |
| ・森林環境学習の森整備事業 | 事業費：5,025千円 |
| 森林環境学習の森整備 | (1,050千円) |
| 学校林森林環境学習の森整備 | (3,975千円) |

○H20実績

・森林環境ゼミナール開催事業

流域毎に各事務所（県北、県南、会津、いわき）が主体となり、実施した。

| | | |
|--------|--------------|-----------------|
| 会津流域 | 9月13日（猪苗代町） | 116名（事業費：515千円） |
| 阿武隈川流域 | 11月16日（二本松市） | 74名（事業費：525千円） |
| 奥久慈流域 | 10月25日（矢祭町） | 104名（事業費：525千円） |
| 磐城流域 | 6月21日（いわき市） | 100名（事業費：525千円） |
| | 10月18日（いわき市） | 130名 |
| | 計 | 524名 |

・森林環境学習の森整備事業

村火県有林（県南）

・学校林森林環境学習の森整備事業

会津農林高校（会津）

○実績累計

- ・森林環境ゼミナール 延べ13回開催、延べ参加者1,467名
- ・森林環境学習の森整備 4ヶ所（うち1箇所は2ヶ年で施工）
- ・学校林森林環境学習の森整備 3ヶ所

6 森林ボランティア総合対策事業

事業概要

森林づくり活動の広報、森林ボランティアに関する情報収集・提供、相談窓口業務等を行う森林ボランティアサポートセンターを設置するとともに、森林づくりを先導する事業やボランティア団体の活動を支援するほか、企業の森林づくりへの参加推進に努めた。

| | |
|-----------------------|-------------|
| ・森林ボランティアサポートセンター設置事業 | 事業費：5,146千円 |
| ・森林ボランティア活動推進事業 | 補助額：5,717千円 |
| 森林ボランティア活動活性化事業 | (990千円) |
| 森林ボランティア団体活動支援事業 | (4,727千円) |
| ・環境貢献企業の森林保全参加推進事業 | 事業費：96千円 |

○H20実績

- ・森林ボランティアサポートセンターを引き続き「県民の森」内に設置し、ホームページ及び広報誌（森ボラ新聞4回発行）によるイベントなどの情報提供、相談業務、森林整備機材の貸出等を行った。（アクセス件数：47,611件、平均：3,968件／月）

・森林ボランティア活動活性化事業

①うつくしま21森林づくりネットワークの森林づくり推進連絡会議及び森林づくり活動発表交流会の開催に対して、990千円を補助した。

②森林づくり推進連絡会議を3回（6月、9月、2月）開催するとともに、森林づくり活動発表交流会を11月15、16日に相馬市及び南相馬市で開催し、延べ105名が参加した。

・森林ボランティア団体活動支援事業

22団体に対して4,727千円を補助した。

・環境貢献企業の森林保全参加推進事業

企業に提供できるフィールドの掘り起こしと企業からの森林づくり活動に対する相談等に対応した。また、(社)国土緑化推進機構主催の「企業の森づくりフェア2009」（3月4日、東京都）へ出展し、福島県における企業の森林づくりを県外企業へPRした。

■相談のあった主な企業等

(社)日本自動車販売協会連合会福島県支部、(社)日本旅行業協会、(株)東邦銀行、アルプス電気(株)小名浜工場

「企業の森づくりフェア2009」:(株)正光社、三菱製紙(株)、第一三共(株)

○実績累計

- ・森林づくり活動発表交流会 3回開催、延べ参加者411名
- ・森林ボランティア団体活動支援 延べ59団体(60件)

7 もりの案内人等指導者養成事業

事業概要

もりの案内人を養成するため、審査委員会や養成講座を開催するとともに、森林環境やその指導方法に関する研修会及び森林整備ボランティア団体のリーダーを養成した。

- ・もりの案内人第2期養成事業 事業費：1,859千円
- ・森林づくり指導者養成事業 事業費：1,015千円
 - 森林環境学習指導者育成 (220千円)
 - 森林ボランティアリーダー養成 (795千円)

○H20実績

- ・もりの案内人25名に認定証を交付した。
- ・森林環境学習指導者育成
6月28～29日 もりの案内人等を対象に「県民の森」で実施した。(参加者31名)
- ・森林ボランティアリーダー育成講座研修を13名が修了した。(受講者18名)
- ・平成19年度より森林ボランティアリーダー育成講座受講者のうち、5日間以上の森林整備の指導実績を積んだ者を福島県グリーンフォレスターに認定。(認定者7名)

○実績累計

- ・福島県もりの案内人認定者 H9からの認定者368名
- ・森林環境学習指導者育成 参加者94名
- ・森林ボランティアリーダー育成講座研修 修了者54名
- ・福島県グリーンフォレスター認定者 H15からの認定者84名

8 森林環境教育指導者養成セミナー事業

事業概要

小・中学校教員、公民館指導員等を対象に、森林環境教育の指導者を養成した。

事業費：721千円

○H20実績

県内3方部で、森林環境教育指導者養成講座を開催した。(参加者85名)

- ・中通り会場：「県民の森」

8月4～5日 「野鳥を通して『森林を観る、自然との共生を考える』」(参加者39名)

- ・会津会場：「国立磐梯青少年交流の家」

7月28～29日「葉っぱを通して、森林の不思議を解き明かそう！」(参加者25名)

- ・浜通り会場：「いわき市林業研修センター湯ノ岳山荘」

7月24～25日「森の中のいのちのつながりについてより深く学ぼう」(参加者21名)

講座で作成したプログラム等を活用した各教育現場での森林環境教育の実践状況が県に報告されている。(提出件数:9件)

この報告内容をホームページに掲載し、指導者向けに広く紹介した。

9 県立学校における森林環境学習推進事業

事業概要

県立学校において、森林を守り育てる意識の醸成等を図るため、森林環境調査、木材チップの製造と利用、製炭と木炭利用、きのこ栽培、和紙手漉きなどの体験的な森林環境学習を実施した。(事業費：3,146千円)

- | | |
|--------------------------------|-------------|
| ・森林整備と雑木の有効利用を図る取組み (会津農林高) | 事業費： 979千円 |
| ・森林資源の保全 (森林調査、間伐等) (岩瀬農高) | 事業費： 738千円 |
| ・森林資源を守り育てる意識の醸成 (田島高) | 事業費：1,054千円 |
| ・森林となかよくなろう (森林観察等) (あぶくま養護学校) | 事業費： 375千円 |

○H20実績

- ・会津農林高校

木材チップの有効利用について座学を実施した。

また、林地残材をチップ化し、木材チップの堆肥化実験、造園材料(マルチング)としての利用、炭化試験を実施した。

- ・岩瀬農業高校

森林調査(照度・植生など)、間伐材利用実態調査、きのこ培養、間伐材を利用したきのこの原木栽培を実施した。

- ・田島高校

築窯、製炭を実施し、炭による河川水質浄化に取り組んだ。

また、製材加工について見学等により学習し、木工を実施した。

- ・あぶくま養護学校

県民の森などの森林観察、海老根和紙手漉き体験を実施した。

○実績累計

- ・実施学校数 4校(延べ9校)

IV 森林文化の復興

10 ふくしまの森林文化復興事業

事業概要

ふくしまの森林文化を見直し、現代生活に活かしていくため、地域に根ざした森林文化を掘り起こし、県民に分かりやすい形で公表するためのデータベースの作成を行った。

事業費：6,878千円

○H20実績

- ・調査業務を特定非営利活動法人超学際的研究機構に委託した。
- ・検討委員会を開催(3回)し、有識者の指導のもと4館連携企画展の基本構想構築を進めた。
また、専門部会を開催(4回)し、4館連携企画展の実施に向けた企画内容の検討や事前調査を実施した。
- ・森林文化事例のデータベース構築を進めるとともに、森林文化フォーラムの開催(2月7日)等の効果的な広報の方法について具体的な検討を行った。

V 森林環境の調査研究

11 森林整備効果実証事業

事業概要

森林整備による効果を実証するため、森林整備事業のモデル地域において、水環境の変化等を調査研究した。

事業費：129千円

○H20実績

- ・前年度に引き続き、調査地3ヶ所(二本松市:2ヶ所、白河市:1ヶ所)で量水試験等観測を実施した。(二本松市は森林計画課、白河市は林業研究センター職員で継続的に実施。)

12 木質バイオマス等利用による園芸施設の開発事業

事業概要

木質バイオマス燃料(木質ペレット)及び太陽光発電等自然エネルギーを活用することで、化石燃料を極力用いない省エネルギー型園芸施設を試作し、その実用性を検証した。

事業費：2,908千円

○H20実績

- ・クリーン・エネルギー・ネットワークLLP(日大工学部)と委託契約し、設備等を設計した。
- ・園芸施設にイチゴを定植し、ペレットボイラーを導入。LED利用による発光電照システム、フロア送風による空気膜二重構造保温システム、太陽光等自然エネルギー蓄電型発電装置システムを設置し、試験を開始した。

VI 森林環境基金の運営

13 森林環境基金運営事業

事業概要

森林環境税に対する県民の理解を深めるため、パンフレットの配布やホームページ等による広報、交流会の開催等を行った。

- ・森林環境税関連施策PR事業 事業費：3,021千円
- ・森林の未来を考える懇談会運営事業 事業費：1,026千円

○H20実績

- ・森林環境税関連施策PR事業
 - ①森林環境ポスターを県民の目に付く場所に掲示した。
※いちい、イオン、リオン・ドール(3系列：約80店舗)、病院(110施設)、大町地下歩道(3ヶ所)
 - ②パンフレット(税と用途)、グッズ(ふくしま県民憲章入り鉛筆・絆創膏入りチラシ)、ホームページによりPRした。
 - ③政広報ラジオ番組(イブニングブレイク)、月刊誌(林業福島)等により、定期的にPRした。
 - ④メディアツアーを実施し、県政記者に事業実施箇所を実際に見てもらったうえで、事業をPRした。
 - ⑤林業祭や生涯学習フェスティバル、環境エネルギーフェアにおいて、県内の名水を試飲してもらい、森林環境基金事業をPRした。
 - ⑥水源地域の森林整備交流会(7生活圈毎)を開催し、上下流の県民の交流の中で森林整備の重要性をPRした。(参加者334名、平均：48名/方部)
県北：20名(11月27日)、県中：17名(2月14日)、県南：177名(8月8日)、会津：34名(12月7日)、南会津：43名(11月1日)、相双：23名(12月9日)、いわき：20名(11月22日)
 - ⑦森林の役割と森林を守り育てることの大切さについて、県政広報テレビ番組「うつくしま情報局(FTV)」で放映した。(1月18日)
 - ⑧森林文化フォーラムを開催し、広く森林文化を紹介することで、森林を守り育てる意識の醸成を図った。(2月7日、参加者200名)。
- ・森林の未来を考える懇談会運営事業
森林の未来を考える懇談会を5回開催した。
 - 第1回懇談会(6月4日)
平成19年度事業実績の報告、平成20年度事業概要の報告
 - 第2回懇談会(8月7、8日)
平成19年度事業の調査(現地調査)
 - 第3回懇談会(10月27日)
平成18、19年度事業の実施状況と評価について報告
 - 第4回懇談会(12月16日)
平成21年度森林環境交付金事業(地域提案重点枠)の審査
平成21年度の新たな事業仕組みについて協議
 - 第5回懇談会(3月27日)
平成20年度事業実績見込みの報告、平成21年度事業概要の報告

○実績累計

- ・森林環境フォーラム 参加者200名
- ・ふくしま森林文化フォーラム 参加者400名
- ・メディアツアー 2回
- ・水源地域の森林整備交流会 14回開催、延べ参加者645名
- ・森林の未来を考える懇談会 14回

VII 市町村が行う森林づくりの推進

14 森林環境交付金事業

事業概要

県民一人一人が参画する新たな森林づくりを効果的に進めるため、市町村が独自性を発揮して創意工夫を凝らした事業を展開することができるよう、森林環境基金の一部を交付した。

・森林環境基本枠

全ての市町村が一定の取り組みを継続的に実施

対象分野：①県民参画の推進、②森林の適正管理推進、③森林環境学習の推進

・地域提案重点枠

市町村の創意工夫による優れた提案事業

対象分野：①森林整備の推進、②県産間伐材の利活用推進、

③木質バイオマスの利活用推進、④その他

○H20実績

・森林環境基本枠

60市町村、78,177千円（いわき市6,893千円～湯川村538千円、平均：1,303千円／市町村）

森林環境学習実施校：小学校290校、中学校89校、計379校。（全774校の49%）

・地域提案重点枠（事業申請：44市町村、104件、要望事業費：222,673千円）

平成19年12月17日開催の平成19年度第4回森林の未来を考える懇談会において審査。

採択：42市町村、81件、153,460千円

実績：41市町村、79件、139,178千円

○実績累計

・森林環境基本枠

交付金額：236,540千円

森林環境学習実施校：小学校374校、中学校120校、計494校。（全774校の64%）

・地域提案重点枠

交付金額：53市町村、225件、418,640千円。